

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No13(溝上のぶつぶつ)

#10 第20回高大連携教育フォーラム(12/3)の振り返り
高校・大学の格差がすさまじく広がっている?
荒瀬克己先生: 文科省施策を高校教育に特化して読み解く

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

第20回連携教育フォーラム (主催) 京都高大連携研究協議会

- ・京都府教育委員会
- ・京都市教育委員会
- ・京都府私立中学高等学校連合会
- ・京都商工会議所
- ・公益財団法人大学コンソーシアム京都

■ 記念講演 1

荒瀬克己 氏

(独立行政法人 教職員支援機構 理事長)

「高等学校教育には何が求められているか
— 「令和の日本型学校教育」答申の描くもの

■ 記念講演 2

溝上慎一 氏

「トランジション実現のための影響の大きな
高校・大学での学びを理論的、実証的に示す」

第20回高大連携教育フォーラム

— 京都高大連携研究協議会発足20年記念 —

2020年代を通じて 実現すべき高大連携

— 生徒・学生が
『持続可能な社会の創り手』となるために —

急激に変化する社会の中で、「持続可能な社会の創り手」となる子どもたちの資質・能力を育むため、中央教育審議会は、2021年1月、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、答申した。答申は、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に焦点をあてている。高等学校・大学双方が教育の質・多様性や包摂性を高め、誰一人取り残すことのない教育を展開する上で、今、両者の連携・接続には何が求められ、どう考えて実践すべきか。

京都高大連携研究協議会は、学校間競争や個別の利害関係を乗り越え、「産官学」という京都ならではの人材育成を目指し、2003年5月に発足した。以降、本フォーラムを主軸とした様々な高大連携事業を展開し、2022年度は協議会発足20年目となる。

20回目となる本フォーラムでは、高大連携・接続の歩みを振り返るとともに、『持続可能な社会の創り手』を育てる高大連携教育の実現について、当事者が同じ場で共有し、考える機会とする。

2022年12月3日(土)

10:00~17:30 (受付9:30~)

ハイブリッド開催 (会場) × (オンライン) Zoom

参加費 京都府内の高等学校・大学関係者 1,000円
上記以外の方 2,000円
※「報告集」を含みます。

第1部 10:00~15:00

ハイブリッド 会場 00名 / オンライン 00名

聯合司会 山本 以和子 氏 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室員 / 京都工芸繊維大学 工学部 教授)
聯合挨拶 黒坂 光 氏 (京都高大連携研究協議会 会長 / 公益財団法人大学コンソーシアム京都 理事長)
趣旨説明 長谷川 豊 氏 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長 / 京都府立大学 公共政策学部 准教授)

■ 記念講演 1 (10:20~11:05)

高等学校教育には何が求められているか
~「令和の日本型学校教育」答申の描くもの~

講師 荒瀬 克己 氏 (独立行政法人教職員支援機構 理事長)

■ 記念講演 2 (11:15~12:00)

トランジション実現のための影響の大きな
高校・大学での学びを理論的、実証的に示す

講師 溝上 慎一 氏 (学校法人桐蔭学園 理事長 / 桐蔭横浜大学 教授)

■ パネルディスカッション (13:00~15:00)

どうすれば「持続可能な社会の創り手」を育成できるのか

コメンテーター 荒瀬 克己 氏・溝上 慎一 氏

事例報告者 伊藤 恵哉 氏 (京都府教育委員会 高校教育課 指導主事)
滝水 順之 氏 (京都市教育委員会 学校指導課 指導主事)
酒井 淳平 氏 (立命館宇治中学校・高等学校 教諭)
コーディネーター 杉岡 秀紀 氏 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室員 / 福知山公立大学 地域経営学部 准教授)

No29

#1 日本の大学における

教養教育・一般教育の歴史

—吉田文先生(早稲田大学教授)にインタビュー—

これからの日本では、教養教育が大学、高大接続ゾーンで見直されていく。そのために知っておくべき知識!



No17(新著の企画)

#5 大堀精一監修

『マンガでわかる! 小論文 頻出テーマ編』



「知識がなければ自分の考えは書けない」という主張は、小論文だけのことではないはず!

No18

「公教育」と「私教育」の観点から 学校を問い直す

—安彦忠彦先生(名古屋大学名誉教授)にインタビュー—



高校、大学は生涯学習機関として考えられないか!それを説明する概念が「公教育」に対する「私教育」である

高校の格差がすさまじく広がって
いくような気がしました」
(会場の感想)

■ 記念講演 1

荒瀬克己 氏

(独立行政法人 教職員支援機構 理事長)

「高等学校教育には何が求められているかー「令和の日本型学校教育」答申の描くもの



ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

